

の自由公表の自由まで押擴げらるべきは論ずるまでもないが其自由を行使する者は之れに對する責任を負ふべきは亦敢て多言を俟たない問題である。官吏が其身分法則に従はねばならぬことも明白な筋合であると同時に監督の任に當る官吏が其意見公表者に負はしめたる制裁に關して其責任を負ふべきことも復た當然であつて國民の公平なる判斷は兩者何れに最後の責任を負はしむべきか之れ國民の判斷力の如何に存するのである。唯京大事件の如き事實問題は總てを白紙化して考慮すべきものである。

月落ちて雲に杜鵑の餘聲あり

巴藤

老人退却の是非

弦田彌多朗

聖典に曰く己が目に梁木のあるにいで兄弟に向ひ汝の目にある塵を取り除かせよと云ひ得んやと文章報國の第一線に其老筆を振ひつゝある徳富蘇峰子は曰く革新の大事業の如きは壯者之に任せねばならぬ、概して老人の運動は遲緩である。老人は兎角分別倒れの癖がある故に老人は第一線より引退すべしと借問す言者齋藤内閣總理大臣高橋大藏大臣山本内務大臣即ち非常時内閣の三大柱は如何蓋し蘇峰子は此等三大臣に對して婉曲に辭職勸告を爲さんとして此言を發したるものなるか。三大臣が敢て現職に留り政界の最前線に立つ所以のものは此重大時局非常世相に際し若輩や無經驗者に政務を司らしむるは國家の爲不利なり乃公ならずんば吾が社稷を奈何せんとの慨世の忠誠に出づるなるべし。されど存外に若年者無經驗者に一任するも強ち憂慮すべきものにあらず、見よ現に鳩山文部大臣後藤農林大臣永井拓務大臣の如き假令一抹の不安なきにあらざるも大體に於て其勇氣、彈力、理解力、奮闘力に

於て寧ろ老人輩の遠く及ばざる所ある
は世人の既に了知する所なり。個人的
生活の安定を得たる輩は蘇峰子を始と
して悉く第一線より退去するも敢て不
可なきなりと雖も老齡自ら其重荷を知
りつゝも尙且筆刀の局に當り勞役の苦
に當るは生活の不安定なるの已むを得
ざるに出づるもの自ら省みて哀愁の情
に堪へざるものなるの外豈に他意あら
んや。若し彼等にして生活上の脅威を
感ぜしめらるゝことなからんか喜んで
第一線より退却し心靜かに餘生を送る
べきは明白なり。嗚呼他に要求する者
は已むを得ざるにあらずして一個の野
心執着心に出で、第一線に留り生活上
已むを得ず恥を忍んで強て勞役の前線
にあまぐ者は營々孜々として他に求む
る餘地あるを見ず。其執れが命長く
して恥を知るものぞ。蘇峰子の言是な
るか、吾人の所感世の首肯を得るなる
や否。

圓タク流し禁止日の事故

警視廳では去五月十二日を圓タク流
し禁止デーとして實行したが其調査の
要項は (一)圓タクの流しが禁止され
た場合事故ほどの程度に防止出来るか
(二)交通混雑ほどの程度に緩和出来るか
(三)市民ほどの程度の不便を感ず
るか (四)當業者の經濟上どんな影響
を蒙むるか (五)將來圓タクの駐車場
ト輕傷者約八十パーセント重傷者約七
制度を採用するとせばどの程度に於て
實現の可能性があるかであつたが其内
事故の實績を見ると五月一日乃至十日
間の一日平均事故件数が九〇件負傷が
八十(内輕傷五十重傷七死亡二十三)
であつたが禁止當日は事故件数が六十
五件負傷が四十四(内輕傷三十九重傷
五死亡ナシ)であつた之れを平日に比
較すると件數に於て約七十二パーセン
ト輕傷者約八十パーセント重傷者約七
十七パーセントである、當日の交通量
が平日の七十パーセントであることに
比例すると敢て好成绩を示したとは思
はれない尙禁止當日の交通状態は調査
時刻十二時間内に於て通過車數が乗車
は一、二、三、九臺で乗車總數二三、八
九三一人一車平均二人空車は八、六三
九臺で合計通過車數二〇、八七八臺で
あつたと云ふ。